

「対話によるまちづくり」の取組状況について

1 今年度の取組について

(1) タウンミーティング

	テーマ	開催日	参加者数
エリア別開催	地域編「西明石エリア」	4月20日（土）	52人
	地域編「大久保エリア」	5月25日（土）	68人
	地域編「二見エリア」	6月22日（土）	39人
年代別開催	こども会議	7月23日（火）	43人
		7月30日（火）	44人
		8月6日（火）	44人
	若者会議	9月14日（土）	12人
テーマ別開催	若者会議 Online	2月21日（金）	20人
	あかしの景観	10月25日（金）	21人
	あかしの財政	11月9日（土）	19人
	みんなの対話でつくる明石	12月21日（土）	27人
	居場所	1月25日（土）	37人

タウンミーティングでは、幅広くテーマを設定し、対話を通して未来のより良い明石のまちの実現に向けた思いやニーズ、課題など、多様な市民の声を聴き、施策の検討につなげました。エリア別開催やこども会議などでいただいた声を大久保駅周辺市有地の利活用やプレーパークの取組などに反映したほか、景観、財政をテーマに開催した際の声を計画策定に活用しました。

(2) ワークショップ

行政計画の策定や改定、施設整備や施策運営などを検討するにあたり、「市民との対話」を行うワークショップを実施しました。様々な立場の参加者が、テーマについての対話を重ね、市民が思うニーズや課題などに関する声を計画案や施策に取り入れ、また、審議会等の検討につなげるなど活用しました。

【主なワークショップ実施例】

「みんなで考えよう 新しい二見の図書館」、「旧市立図書館跡地をみんなで考えよう」
「みんなで明石の農業を考えよう」、「ぶんぱくのこれから」 など



〔二見図書館に関するワークショップのようす〕

〔意見を反映した整備イメージ〕

(3) 市民ファシリテーター養成講座

地域活動や市民活動をはじめとするまちづくりの様々な場面において、市民主体の対話が広がり、各取組の活性化や多様な主体による連携が進むよう、市民ファシリテーターの養成講座を実施しました。

養成講座 実施概要

講師：市ファシリテーション担当職員、コミュニティ創造協会職員、外部講師

内容：基本編（2024年8月～9月）

・ファシリテーションとは？

・「聴き出す力」と「書き出す力」の講義・ワーク など

応用編（2024年10月）

・基本編で学んだことを実践的に練習

基本編及び応用編を受講された63名には、修了証を交付しました。

受講者からは「楽しく学ぶことができ、これから職場で活かしたい」といった声や「もっと練習したい」「継続して学び続けたい」との声を多く頂き、フォローアップとして練習機会の提供も行っています。



(4) 職員向け研修

様々な背景や思いを持つ人々と対話を通じて合意形成しようとする際に重要となる理論や技術を学ぶため、外部講師及び市ファシリテーション担当職員による「対話と合意形成」セミナーを全係長級職員（消防職・保育教育職等を除く約300人）を対象に実施しました。

また、入庁3年目職員（約50人）を対象に、職場で活用できるファシリテーションについて学び、体験する研修を実施しました。

2 今後の取組方針

今後のタウンミーティングでは、これまでのテーマ別や世代ごとの開催に加え、これまでに多くの声をいただいた「居場所の創出」などの課題について、その背景や原因を探りながら目指す姿などをより具体化できるよう、継続的に対話を深めていきます。また、市民ファシリテーター養成講座及び職員向け研修を継続して実施し、対話の場を支える担い手を広げ、受講後も学び続けることができる機会を設けていきます。

更に、市内各地で多様な主体によって「対話の場」が展開される催しとして「（仮称）対話と共創のウィーク」を開催し、「対話によるまちづくり」の機運を更に高めるとともに、多様な主体が立場を超えて連携し、様々な社会課題の解決に継続的に取り組むための枠組みとして「（仮称）共創プラットフォーム」の構築を検討し、産官学民共創によるまちづくりにつなげていきます。